

映画タイトル	The Commitments (ザ・コミットメンツ)
製作年	1991年
DVD 情報	日本で入手可/英語字幕あり (118分)
監督	アラン・パーカー
映画について	『ザ・コミットメンツ』は、アイルランドの小説家ロディ・ドイルの同名の小説(1987)を映画化した作品です。アイルランドの喜劇精神がよく表れている優れた映画で、1991年の英国アカデミー賞最優秀作品賞を受賞し、2005年には「史上最高のアイルランド映画」の投票で一位を獲得しました。アイルランド映画を語る時に外すことのできない作品です。
主要キャスト	ロバート・アーキンズ (ジミー役)、グレン・ハンサード (アウトスパン役)、ケン・マクラスキー (デレク役)、ジョニー・マーフィー (ジョーイ役)、フェリム・ゴームリー (ディーン役)、アンジェリン・ボール (イメルダ役)
あらすじ	映画の舞台は、アイルランドの首都ダブリン。労働者階級で音楽通の若者ジミー・ラビットは、バンド活動をしている知人のアウトスパンとデレクから彼らのマネージャーになって欲しいと頼まれる。彼は、かのローリング・ストーンズにも負けないビッグバンドのマネージャーになることを夢見て、新バンドのメンバーを集め始める。目指す音楽はソウルミュージック。ダブリンの労働者の魂を歌いあげるダブリンのソウル音楽である。やがてメンバーが集まり、バンド名を「ザ・コミットメンツ」と決定する。コンサートを重ね評判を高めて、バンドは新聞の取材を受けるほどになる。しかし、バンドの内外で問題が起こり始め、徐々にバンド活動の雲行きが怪しくなっていく、ある日決定的な出来事が・・・。
英語の特徴 発音・文法・語彙	アイルランド英語と一口に言っても、地域や社会階層や年齢によって様々なバリエーションがあります。この映画の主要な登場人物は、年配のジョーイを除くと、ダブリンのノースサイドに住む労働者階級の20代の若者たちです。映画の中に出てくる英語は、そういう人々が使っているアイルランド英語、あるいは、使うと考えられているアイルランド英語の幾つの特徴を表しています。 【音声的特徴】アイルランド英語では、RPでは /aɪ/ で表記される音を、[əɪ]あるいは[ɔɪ]のように発音することがあります。バンドのメンバーが初めて揃って曲の練習をしている場面で、イメルダを含むバックコーラスの女性三人が、"ride"の発音を「ロイド」のように発音して、「普

	<p>段の発音」ではなく「ライド」と発音して、とジミーに直される場面があります。</p> <p>それから、any や many を[eni]や[meni]ではなく[æni]や[mæni]と発音するのもアイルランド英語の発音の特徴の一つです。ジミーの anyone の発音は「アニワン」のように聞こえますし、ジミーの家の隣に住む中年女性が歌を歌いながらアウトスパン達に近づいてきて、"Any chance for me, lads?" (ねえ、あんたたち、私にも (バンドに入る) チャンスある?) と話しかけるのですが、この時の"Any"の発音も [æni]です。</p> <p>【文法的特徴】アイルランド英語では、完了の意味を表すのに、"be after ~ing"という構文を使うことがあります。ジョーイが、エルヴィス・プレスリーの家に行った時の思い出話の中で、次のような台詞を言います。</p> <p>"Yo! Elvis, me man. Look what your daddy is after doing to my trumpet." (よう、エルヴィス、おい。お前の親父が俺のトランペットにしちまったことを見てくれよ)</p> <p>また、アイルランド英語では二人称代名詞 you の単複を区別することがあります。この時単数は普通通り you を使うのですが、複数はいくつかの言い方があります。一つは、昔の英語の二人称の複数形をそのまま保持したもので、ye (発音は[ji:]) という言い方です。あるいは単数の you や複数形の ye に複数形を作る接尾辞の-s をつけて、yous(e) (発音は[ju:z]) または yez (発音は[jɪz]) という言い方をします。これらのうち yous(e)と yez の形はとりわけダブリンの英語の特徴と考えられているようです。『ザ・コミットメンツ』の中でもこれらが頻出します。</p>
映画のみどころ	<p>映画の舞台となっているのは、アイルランドが 1990 年代の半ばから 2000 年代の半ばにかけて目覚ましい経済成長を遂げる前の首都ダブリンです。映画に出てくる街の風景などから察しがつくと思いますが、この頃のアイルランドは、経済的に恵まれない貧しい国でした。仕事に就くことができない若者が沢山おり、映画の中でも、ジミーやディーンが失業手当を受け取りに役所に行くシーンがあります。この映画の最大の魅力は、そのような逆境の中からはい上がろうとするザ・コミットメンツのメンバー達の元気よさ、夢を追いかける活力にあります。ソウルミュージックをすることに初めはメンバーの大部分がとまどっていますが、ジミーの情熱的な掛け声に乗って全員で突っ走ります。結局最後は仲間割れをおこしてバンドは空中分解してしまうのですが、この映画を見ていると、仲間とともに夢を追いかけて何かに熱中することの楽しさ、大切さが良く伝わってきます。</p>

その他	『世界の英語を映画で学ぶ』第4章でより詳しく論じています。
-----	-------------------------------